

聖隷クリストファー大学

---

# 地域連携推進センター 年 報

地域連携プロジェクト 報告書

第12号  
2020



聖隷クリストファー大学  
地域連携推進センター



## ごあいさつ

地域連携推進センター長の吉本好延と申します。聖隷クリストファー大学地域連携推進センター年報第12号（2020）の刊行にあたり、ご挨拶させていただきます。本学は、地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学と連携して事業を行っております。地域連携推進センターの活動は、2021年度現在で13年目に入っており、当年報では2020年度の実績を報告しております。

2020年度は、1) 地域連携プロジェクトの実施、2) 浜松市と大学との連携事業～大学生による講座、などに取り組みました。

地域連携プロジェクトの実施の目的は、保健医療福祉・教育分野に貢献する事業・研究を推進することであり、本学周辺地域の企業・団体と協同で行う事業・研究を対象に『地域連携プロジェクト費』を配分しております。2020年度は計2件、計312,710円のプロジェクト費を配分いたしました。

「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」の目的は、市民と大学生が生涯学習を通じて、自己の成長や能力の向上を図る学習活動を推進し、その学びの成果を地域に還元していくことです。浜松市が企画・推進する事業に本学が参画しており、2020年度に年間で15回の講座を実施し、述べ374名の市民の方々に参加いただきました。

そのほか、当センターが窓口となり、地域での各種研修会への講師等の派遣、保健医療福祉・教育の専門分野の委員等の派遣を行っており、地域との連携・協働による課題解決を図り、地域の保健医療福祉・教育の更なる質の向上のため積極的に活動しております。派遣の実績につきましては、ホームページでも公開しておりますので、ご依頼の際は当センターのホームページよりお申し込みいただき、ご不明な点等ございましたら、地域連携推進センター事務局までお問い合わせください。

当センターの事業を通じて、行政や企業、他大学と連携を図り、地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に貢献してまいります。今後ともどうぞよろしく願いいたします。

2021年11月

聖隷クリストファー大学  
地域連携推進センター  
センター長 吉本 好延



## 目 次

### I. 2020 年度事業報告

1. 地域連携プロジェクト 課題一覧	1
2. 浜松市との連携	4
3. 研修会講師等実績	5
4. 保健医療福祉団体の委員等実績	11
5. 資 料	14

II. 2020 年度地域連携プロジェクト 報告書	20
---------------------------	----

地域連携推進センター運営会議 委員一覧

# 1. 地域連携プロジェクト 課題一覧

当センターでは、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う本学周辺地域の課題解決に向けた事業を対象として「地域連携プロジェクト費」を配分しています。2020年度は計2件、計312,710円の申請があり、地域連携推進センターによる審査の結果、2件の課題を採択し、計312,710円のプロジェクト費を配分しました。プロジェクト課題2件の報告書を当年報(P.22～)に掲載しておりますので、併せてご覧ください。

所属	代表者	職位	課題	連携機関	配分額 (円)
社会福祉学研究科	川向 雅弘	教授	浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上	浜松市スクールソーシャルワーカー、浜松市教育委員会	59,510
リハビリテーション学部	新宮 尚人	教授	リハビリテーション学部における産学連携推進の基盤整備	株式会社 杏林堂薬局、共栄プロセス株式会社	253,200
合計					312,710

## <地域連携プロジェクト 報告会>

2019年度に地域連携事業研究費の配分を受け実施された事業研究の報告会を下記日程で開催しました。

日時：2020年11月7日(土) ※聖灯祭・ホームカミングデーと同日開催

場所：聖隷クリストファー大学2号館1階 学生ホール

発表：ポスター展示



## 2020年度「地域連携プロジェクト費」募集要項

地域連携推進センター「地域連携プロジェクト費」について、下記の要領で事業計画を募集します。

### 1. 基本方針

地域連携推進センターの柱のひとつである「保健医療福祉分野に係る全ての人たちとの共同事業・研究」を推進するために、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を募集します。

### 2. 対象となる研究・事業および研究費の金額

浜松市との包括連携等、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う地域の課題解決に向けた事業を対象とします。組織としての連携事業とするため、代表者は学部長、学科長、領域長もしくは社会福祉学科コース責任者とし、大学校務として学部・学科・領域・コース単位で取り組む連携事業とします。

・プロジェクト費の配分総額は130万円、1件当たり最大40万円です。

### 3. 事業対象期間

2020年4月1日～2021年3月31日

### 4. スケジュール

募集告知	1月15日(水)
計画の受付	2月12日(水)～3月9日(月)17時まで
地域連携推進センター運営会議<定例> (申請状況の報告／審査要領の確認／募集の趣旨から大きく逸脱した申請課題があった場合の対応の検討)	3月25日(水)
審査期間	4月1日(水)～4月10日(金)
地域連携推進センター運営会議開催<定例> (配分案の検討)	4月22日(水)
部長会で配分案決定	5月12日(火)
配分結果通知、執行可能※	5月13日(水)
執行役員会に配分結果を報告	5月15日(金)

※人間を直接対象とする調査・研究の要素が含まれる場合は全て倫理審査の「承認」が必要となります。この場合、倫理審査の承認後から執行可能となります。

### 5. 申請期限

3月9日(月) 17時

- ・計画書は、必ず地域連携推進センターメールアドレス「health-science@seirei.ac.jp」へ申請期限までにメールでご提出ください。申請期限以降は、提出データの修正・差し替えはできません。
- ・受付け漏れを防ぐため、メール受信の翌日中(土・日曜、祝祭日を挟む場合はその翌日)に受付け完了のメールを返信します。返信がない場合には総務部担当者(田内、黒田)へご連絡ください。

## 6. 申請における注意事項

- ・配分されたプロジェクト費の執行は、部長会で配分案が決定し、配分結果を通知した後からとなります。なお、人間を直接対象とする調査・研究の要素が含まれる場合は、全て倫理審査の「承認」が必要となるため、配分結果の通知後で且つ倫理審査の承認を得た後から執行可能となります。通知前(倫理審査が必要な場合は、倫理審査の「承認」前)の執行は認められませんのでご注意ください。
- ・計画書の経費内訳欄には、できるだけ具体的な積算根拠を記載してください。算出根拠の未記入等、記載内容に不備があった場合は、該当経費は配分対象にならないことがあります。
- ・限られた予算を有効に配分するため、既に研究室に備えられているパソコン、プリンター、総務部で貸出をしているデジカメ、ビデオカメラ、ICレコーダー等の申請はできるだけご遠慮ください。特別な事情により申請をする場合は、計画書に申請理由を添付してください。
- ・プロジェクト費の配分は1年単位です。プロジェクトを複数年度にわたり遂行する予定でも、年度ごとの申請が必要です。
- ・計画書の一部を地域連携推進センター HP にて公表します。

## 7. 審査の方法

地域連携推進センターは、配分案を検討するにあたり、申請された計画書に対して以下の項目を目安にして審査をします(15点満点。絶対評価)。

項目
(1) 設定した課題の妥当性と課題解決に向けた目標設定の妥当性 <5点満点>
(2) 計画：方法・体制の妥当性 <5点満点>
(3) 申請経費の妥当性 <5点満点>

## 8. 成果の提出

- ・代表者等は、プロジェクトの成果を取りまとめ、次の2種について2021年4月末日までに地域連携推進センターに提出してください。
  - ① 事業成果報告書(A4版サイズ、3～4枚程度/地域連携推進センター年報等に掲載)
  - ② 一般向けの抄録(A4版サイズ、1枚/地域連携推進センターHP等に掲載)
- ・代表者等は、学内合同研究発表会(5月予定)および地域連携推進センターが企画する報告会(11月予定)で発表する義務を負います。

### ※関連書類

- ・2020年度 地域連携プロジェクト費 計画書



## 2. 浜松市との連携

### 浜松市と大学との連携事業～大学生による講座 2020年度実施報告

本学は、浜松市が企画・推進する事業「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」に参画しています。この事業は、市民と大学生が生涯学習を通じて自分の成長や能力の向上を図る学習活動（生涯学習）を推進し、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に行われています。本学では2020年度に年間で15回の講座を実施し、述べ374人の市民の方々に参加いただきました。2021年度も継続して本事業に参加します。

講座名	対象	担当学科等	開催日	会場	参加者数
認知症予防 “海馬を鍛えよう!!”	一般	作業療法学科	2020年9月14日	新津協働センター	25
			2020年10月19日	龜玉協働センター	16
			2020年11月30日	積志協働センター	24
			2021年2月26日	みをつくし文化センター	19
フレイルの危険サインを発見！ 楽しく自分で 健康チェックをしよう！	一般成人・ 高齢者	社会福祉学科 介護福祉学科	2020年10月21日	北部協働センター	20
			2020年11月4日	富塚協働センター	22
			2021年1月6日	三方原協働センター	10
おにいちゃん、おねえちゃんに なるための 「赤ちゃんのお世話講座」	幼児～小学 生、新しい 家族を迎え る予定のあ るご家族	看護学科	2020年11月6日	富塚協働センター	10
自分の身体機能や運動能力を 調べてみよう！ ～体の仕組みについて～	小学生	理学療法学科	2020年11月13日	浜松市立北浜小学校	83
			2020年11月20日	浜松市立北浜南小学校	71
			2020年12月5日	可美協働センター	18
健康寿命を延ばすには？ ～脳トレや体操に取り組んで 心も体も元気に！～	高齢者	理学療法学科	2020年11月20日	佐久間歴史と 民話の郷会館	18
			2020年11月27日	熊ふれあいセンター	11
みんなで筋肉学 筋肉を学んで、肩こり・腰痛に 負けない体を作る	一般成人・ 高齢者	理学療法学科	2020年11月27日	クリエート浜松	13
			2021年1月15日	西部協働センター	14



### 3. 研修会講師等実績

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
1	組合立静岡県中部 看護専門学校	令和2年度卒業記念講演会 テーマ：寄り添う看護とは 対象：令和2年度卒業生、1年生、2年生、 教職員	看護学部 鶴田恵子 教授
2	医療法人社団三誠会 北斗わかば病院	看護部研修会 テーマ：サーバントリーダーシップ研修会 対象：看護管理者・介護管理者	看護学部 檜原理恵 教授
3	静岡済生会総合病院	看護倫理研修 テーマ：事例検討で看護倫理を学ぼう 対象：看護管理者（師長・主任・副主任）・ ベテラン看護師	看護学部 大石ふみ子 教授
4	浜松市こども家庭部 幼児教育・保育課	保育士再就職支援研修会 テーマ：子どもの事故防止・病気予防の知識 対象：現在保育の職に就いていない保育士資格 を有する人	看護学部 宮谷 恵 教授
5	公益社団法人 静岡県看護協会	令和2年度「看護職員実習指導者等講演会 (特定分野)」 テーマ：実習指導の実際Ⅰ：在宅看護論 対象：静岡県内の看護実習指導従事者	看護学部 酒井昌子 教授
6	浜松労災病院	看護研究指導 テーマ：2020年度看護研究 対象：浜松労災病院研究従事者	看護学部 佐久間佐織 准教授
7	医療法人社団八洲会 袋井みつかわ病院	院内研究研修 テーマ：研究計画書の作成について 対象：看護師、介護士、事務職員による 院内研究担当者	看護学部 藤浪千種 准教授
8	浜松市浜松手をつなぐ 育成会	発達支援委員会主催講座 テーマ：知的・発達障害のある思春期女子のため の月経教育プログラムの効果検証 対象：保護者、支援者	看護学部 津田聡子 准教授
9	一般社団法人 静岡県訪問看護 ステーション協議会	令和2年度 訪問看護ステーションの看護師研修 テーマ：「災害看護」 訪問看護ステーションにおける災害時の 対応について 対象：県内の訪問看護ステーションに従事して 3年以内の看護師等	看護学部 若杉早苗 助教
10	静岡県西部健康福祉 センター	令和2年度新任期地域保健従事者現任研修会 テーマ：対象者理解と個別支援 ～困りごとに一緒に悩んで・寄り添って いく保健師・栄養士を目指そう 対象：地域保健活動に従事して1～3年目の 管内市町及び西部健康福祉センターの 保健師・栄養士	看護学部 若杉早苗 助教

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
11	静岡県西部健康福祉センター	令和2年度中堅期地域保健従事者現任研修会 テーマ：中堅期に求められる役割と能力 ～実践者として個別の気づきを形ある施策に繋ぐ方法～ 対象：地域保健活動に従事して概ね6～15年目（中堅期前期）の管内市町及び西部健康福祉センターの保健師・栄養士	看護学部 若杉早苗 助教
12	静岡県西部健康福祉センター	令和2年度保健委員リーダー研修会 テーマ：居心地のよさと認め合いから始まる地域づくり ～ゆるつながりで快適・健康～ 対象：管内市町保健委員、市町担当職員	看護学部 伊藤純子 助教
13	浜松市北区役所 長寿保険課	地域ケア会議 研修会 テーマ：パーソナリティ障害の理解と対応について 対象：地域包括支援センター職員及び行政職員	看護学部 伊藤純子 助教
14	医療法人社団八洲会 袋井みつかわ病院	院内研究研修 テーマ：研究計画書の作成について 対象：看護師、介護士、事務職員による院内研究担当者	看護学部 河野貴大 助手
15	三方原圏域生活支援体制づくり協議体	三方原圏域生活支援体制づくり協議体シンポジウム テーマ：・浜松市の高齢者の現況、協議体と生活支援コーディネーターの設置について ・三方原、都田、新都田地域の活動報告 ・大学、社会福祉法人が、地域と繋がって いこうとする取り組みや考え方について 対象：住民主体の支え合い・助け合い活動に関心のある方	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
16	浜松市西区役所 社会福祉課	民生委員活動についての研修会 テーマ：社会福祉を取り巻く状況と民生委員への期待 対象：①西区民生委員・児童委員、主任児童委員 ②福祉関係機関職員	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
17	浜松市社会福祉協議会 北地区センター 浜松市北区民生委員 児童委員協議会 浜松市北区役所 社会福祉課	令和2年度「地域福祉推進セミナー」 テーマ：これから求められる北区における地域福祉活動 対象：北区民生委員・児童委員、地区社協関係者、地域福祉活動関係者	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
18	社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会	令和2年度 住民主体の生活支援セミナー 基調講演 テーマ：地域に求められる住民主体の生活支援サービス 対象：地域住民	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
19	浜松市自立支援協議会	地域共生研修 テーマ：皆が住みよい東区へ ～令和に求められる地域力 対象：東区内の障がい福祉に携わる方	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
20	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	介護福祉士実習指導者講習会 テーマ：スーパービジョンの意義と活用及び実習生の理解①② 対象：介護福祉士資格取得後、実務経験が3年以上で養成校実習施設の実習指導者として登録する者または予定している者	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
21	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	介護福祉士実習指導者講習会 テーマ：スーパービジョンの意義と活用及び実習生の理解①② 対象：介護福祉士資格取得後、実務経験が3年以上で養成校実習施設の実習指導者として登録する者または予定している者	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
22	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	令和3年度介護福祉士実習指導者講習会 テーマ：介護過程の理論と指導方法①② 対象：介護福祉士資格取得後、実務経験が3年以上で養成校実習施設の実習指導者として登録する者または予定している者	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
23	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	外国人介護職員研修交流会 テーマ：高齢者介護の基礎&悩みごとの共有 対象：静岡県内の介護事業所で就労している外国人介護職員、介護職を目指す養成校や日本語学校の留学生	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
24	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	令和3年静岡県福祉職合同入職式 記念講演 対象：静岡県内の福祉施設等に令和3年4月からの採用が内定している方	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
25	浜松市健康福祉部 高齢者福祉課	高齢者虐待防止研修会 テーマ：事例検討を通して、虐待対応への理解を深める 対象：地域包括支援センター職員、行政職員	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
26	静岡県社会福祉人材センター	令和2年度福祉のお仕事魅力発見セミナー テーマ：福祉のお仕事の魅力について 対象：浜松市立北浜南小学校4年生	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
27	社会福祉法人小羊学園	2020年度 小羊学園チームリーダー研修 テーマ：主任・リーダー職としての「スーパービジョン」 対象：法人職員の主任・リーダー	社会福祉学部 社会福祉学科 福田俊子 教授
28	静岡県教育委員会 特別支援教育課	令和2年度第2回特別支援学校生徒指導連絡協議会講演 テーマ：ライフステージを通じた児童生徒等の心のケア～子育て、保育、教育、医療、福祉、就労の連携モデルを目指して～ 対象：各県立特別支援学校（本校、分校、分教室の各教場）の生徒指導主事又は生徒指導担当教諭	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
29	聖隷福祉事業団	施設・在宅看護職員研修 テーマ：看護・介護の関係法規 入居者・利用者の尊厳を守るための 制度知識 対 象：聖隷福祉事業団 施設・在宅看護職員のうち、今年度ラダーレベルⅡ・Ⅲ申請予定者及び希望者	社会福祉学部 社会福祉学科 落合克能 助教
30	社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	令和2年度 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程 初任者コース（中部2） テーマ：～“福祉の専門職”としてのキャリアを描こう！～ ・福祉職員として成長するために ・組織のなかでの多職種連携・協働 等 対 象：福祉・介護職員初任者	社会福祉学部 社会福祉学科 落合克能 助教
31	社会福祉法人三幸会	職員研修会 テーマ：クレーム対応について 対 象：三幸の園、大平台の園職員	社会福祉学部 社会福祉学科 落合克能 助教
32	中区地域包括支援 センター	令和2年度浜松市中区地域ケアマネジャー演習事業 「認知症の方を介護する家族への支援」研修会 テーマ：「認知症の方を介護する家族への支援の 視点を学ぶ」 ～生活を正しく捉えて双方を支える～ 講義と演習指導 対 象：地域のケアマネジャー	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
33	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	介護福祉士ファーストステップ研修 テーマ：コミュニケーションの応用 対 象：介護福祉士資格取得後、実務経験が2年 以上の介護職員	社会福祉学部 社会福祉学科 井川淳史 助教
34	一般社団法人 静岡県介護福祉士会	令和3年度介護福祉士ファーストステップ研修 テーマ：コミュニケーション技術の応用的な展開② 対 象：介護福祉士資格取得後、実務経験が2年 以上の介護職員	社会福祉学部 社会福祉学科 井川淳史 助教
35	社会福祉法人 ひかりの園 浜松協働学舎 工房めい	事業所職員初級中級研修 テーマ：高齢化に伴う知的障がい者の理解と対応 対 象：工房めい生活支援員	社会福祉学部 社会福祉学科 井川淳史 助教
36	静岡県私立幼稚園 振興協会	令和2年度 第1回初任者教員研修会 テーマ：「みんなでスタートラインに立とう」 育ち合うとは？ 対 象：静岡県内私立幼稚園・認定こども園の 初任者	社会福祉学部 こども教育福祉学科 太田雅子 教授
37	一般社団法人 静岡県私立幼稚園 振興協会	令和2年度 第4回初任者研修会 テーマ：幼児理解と評価 対 象：令和2年度 静岡県内私立幼稚園・認定 こども園初任者	社会福祉学部 こども教育福祉学科 太田雅子 教授
38	中区民生委員児童委員 協議会（児童福祉部会）	令和2年度児童福祉部会 講演 テーマ：地域で支援を必要とする子どもを育てる 仕組み 「孤育て」でない「子育て」の応援を 対 象：児童福祉部会 委員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
39	浜松市健康福祉部 健康増進課	事例検討会 テーマ：児童虐待死亡事例検証部会の検証結果に基づいたグループワーク、児童虐待死亡事例検証部会の検証結果に基づいた講義 対象：各区健康づくり課グループ長及び中堅期Ⅲ・中堅期Ⅱの保健師	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授
40	特定非営利活動法人 しずおか・子ども家庭 プラットフォーム	令和2年度 児童養護施設等職員研修 テーマ：①基礎研修 (被措置児童虐待の基本的事項を学ぶ) ②資質向上研修 (基礎研修を発展させたもの) 対象：児童養護施設、自立援助ホーム、障害児入所施設、母子生活支援施設、乳児院等の管理者及び職員、行政職員(保健師、ケースワーカーなど児童福祉分野の職員)	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授
41	浜松市私立幼稚園協会	夏期教員研修会 テーマ：ポストコロナ時代に大切な“かんじる力” “つくる力” “つながる力” 対象：浜松市私立幼稚園、幼稚園教諭	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
42	浜松市私立幼稚園協会	教員研修会 テーマ：ポストコロナ時代に大切な“かんじる力” “つくる力” “つながる力” 対象：浜松市私立幼稚園、幼稚園教諭	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
43	浜松市私立幼稚園協会	夏季教員研修会 テーマ：市内の私立幼稚園教員を対象とした美意識や感性についての講義と造形表現に関わる実技研修 対象：市内私立幼稚園教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
44	志都呂幼稚園 PTA	保護者対象講演会 テーマ：“つ”のつく間の子育て 対象：園児の保護者	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
45	磐田市 PTA 連絡 協議会	成人教育研修会 テーマ：これからのソサエティ 5.0 の時代を見据えた学校教育と PTA 対象：成人教育委員及び役員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
46	磐田市立磐田中部 小学校	校内研修会 テーマ：これからの教育(オンライン授業、SDGs等)について 対象：磐田市立磐田中部小学校教員	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
47	静岡県健康福祉部 こども未来局 こども未来課	令和2年度放課後児童支援員認定資格研修 テーマ：学校・地域との連携 対象：静岡県内在住者または勤務者で、放課後児童クラブ所属者	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授

No	主催	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年度当時)
48	磐田市立磐田中部 小学校	コミュニティ・スクール事業 「ようこそ、まちなか先生」 テーマ：総合的な学習の時間「ようこそ、まちな か先生」での授業担当、講師陣との研究 協議 対 象：磐田市立中部小学校6年生	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
49	アルテ・プラーサ	アートでこどもと響き合う キッズアートプレイヤー講座 テーマ：アート思考のはじめの一步 ～こども心を開いてみたら？～	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授
50	浜松市老人福祉 センター萩原荘	転倒予防教室 テーマ：高齢者の運動機能低下及び認知症予防の ための運動指導 対 象：地域高齢者	リハビリテーション学部 理学療法学科 高山真希 助教
51	浜松市教育委員会 学校教育部指導課	幼児ことばの教室研修会 テーマ：幼児期の発達障害や幼児ことばの教室に 望むこと 対 象：幼児ことばの教室 担当者	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 教授
52	浜松市教育委員会 教育総務課	令和2年度 家庭教育講座 テーマ：子供が豊かに育つ心とからだ ～姿勢・鉛筆の持ち方～ 対 象：浜松市井伊谷小学校 次年度入学予定児 童の保護者	リハビリテーション学部 作業療法学科 中島ともみ 准教授
53	浜松市教育委員会 教育総務課	令和2年度 家庭教育講座 テーマ：子供が豊かに育つ心とからだ ～姿勢・鉛筆の持ち方～ 対 象：浜松市立庄内小学校 次年度入学予定児 童の保護者	リハビリテーション学部 作業療法学科 中島ともみ 准教授
54	浜松市中区役所 まちづくり推進課	第28回「浜松市民アカデミー」 テーマ：「好奇心の、その先へ」 ～未来へツナグ9講座～ 対 象：18歳以上の方（高校生を除く）	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 大原重洋 教授
55	こうのとりの保育園	職員研修会 テーマ：言語検査について 対 象：看護師、保育士、年中児（4歳児）	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 中村哲也 助教

## 4. 保健医療福祉団体の委員等実績

No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年当時)
1	第1回静岡県専任教員養成講習会運営委員会 運営委員 任期：2020年9月2日 主催：公益社団法人静岡県看護協会	看護学部 榎原理恵 教授
2	令和2年度第2回浜松市社会福祉審議会高齢者福祉専門分科会 委員 任期：2020年8月28日 主催：浜松市社会福祉審議会	看護学部 酒井昌子 教授
3	新卒訪問看護師育成委員会会議 委員 任期：2020年8月31日 主催：一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会	看護学部 酒井昌子 教授
4	浜松市地域包括支援センター運営協議会 委員 任期：2020年4月1日～2023年3月31日 主催：浜松市健康福祉部高齢者福祉課	看護学部 仲村秀子 教授
5	治験審査委員会 外部委員 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：聖隷三方原病院	看護学部 熊澤武志 教授
6	浜松市母子保健推進会議 委員 任期：2020年4月1日～2023年3月31日 主催：浜松市（健康増進課 母子グループ）	看護学部 神崎江利子 講師
7	浜松市建築審査会 委員 任期：2020年9月1日～2023年8月31日 主催：浜松市都市整備部建築行政課	看護学部 若杉早苗 助教
8	浜松市国民健康保険運営協議会 委員 任期：2020年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市役所健康福祉部 国保年金課	看護学部 伊藤純子 助教
9	牧之原市健康づくり推進協議会 委員 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：牧之原市健康推進部 健康推進課	看護学部 伊藤純子 助教
10	事務事業評価 外部評価委員会 アドバイザー 任期：2020年9月17日 主催：社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
11	天竜厚生会苦情検討委員会 委員長 任期：2021年4月1日～2023年3月31日 主催：社会福祉法人天竜厚生会	社会福祉学部 社会福祉学科 佐藤順子 教授
12	浜松市障がい者相談支援事業に係る苦情処理規定における第三者委員会 委員 任期：2020年4月1日～2022年3月31日 主催：医療法人社団 至空会	社会福祉学部 社会福祉学科 福田俊子 教授
13	救護施設慈照園 第三者委員 任期：2020年4月1日～2022年3月31日 主催：社会福祉法人遠州仏教積善会	社会福祉学部 社会福祉学科 福田俊子 教授
14	成年後見制度に関する実態把握調査 アドバイザー 任期：2020年8月1日～2020年9月30日（調査企画・調査票作成） 2020年10月1日～2021年3月31日（集計・分析・報告書作成等） 主催：社会福祉法人 静岡県社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 横尾恵美子 教授



No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年当時)
15	浜松市要介護度改善評価審査会 評価委員 任期：2021年2月26日 主催：浜松市健康福祉部介護保険課	社会福祉学部 社会福祉学科 横尾恵美子 教授
16	令和2年度高齢者・障害者虐待防止連絡会 アドバイザー 任期：2020年8月27日 主催：浜松市高齢者福祉課・障害保健福祉課	社会福祉学部 社会福祉学科 野田由佳里 教授
17	令和2年度不登校対策推進協議会 委員 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：浜松市教育委員会指導課	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
18	浜松市 SNS を活用した若者相談支援業務に係る評価委員 任期：2020年6月11日 主催：浜松市こども家庭部次世代育成課	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
19	令和2年度浜松市就学支援委員会 委員長 任期：2020年5月27日～2021年3月31日 主催：浜松市教育委員会学校教育部	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
20	令和2年度浜松市発達障害者支援地域協議会 委員 任期：2020年4月1日～2022年3月31日 主催：浜松市こども家庭部子育て支援課	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
21	令和2年度 第1回浜松地域若年者就労支援推進協議会 任期：2020年9月11日 主催：地域若者サポートステーションはままつ	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
22	浜松市ひきこもり地域支援センター企画検討委員会 委員 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：浜松市ひきこもり地域支援センター	社会福祉学部 社会福祉学科 大場義貴 准教授
23	日常生活自立支援事業 契約締結審査会 委員 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 佐々木正和 准教授
24	浜松市障害者虐待防止対策支援事業 アドバイザー 任期：2020年4月1日～2021年3月31日 主催：浜松市健康福祉部障害保健福祉課	社会福祉学部 社会福祉学科 佐々木正和 准教授
25	磐田市認知症施策推進協議会 委員 任期：2020年9月2日～2022年3月31日 主催：磐田市健康福祉部高齢者支援課	社会福祉学部 社会福祉学科 村上武敏 助教
26	浜松市福祉人材バンク運営委員会 委員 任期：2020年4月1日～2022年3月31日 主催：社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 社会福祉学科 井川淳史 助教
27	浜松市子ども食堂連絡会 アドバイザー 任期：2021年3月10日 主催：社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会	社会福祉学部 こども教育福祉学科 藤田美枝子 教授
28	第9回ジュニアアート展審査会 審査委員 任期：2020年10月8日 主催：磐田市文化協会	社会福祉学部 こども教育福祉学科 鈴木光男 教授

No	内容	担当 (担当教員の所属・職位は2020年当時)
29	浜松市障害者施策推進協議会 委員 任期：2020年5月11日～2023年5月10日 主催：浜松市健康福祉部障害保健福祉課	リハビリテーション学部 作業療法学科 新宮尚人 教授
30	令和2年度浜松市発達支援教育巡回指導員 任期：2020年5月1日～2021年2月28日 主催：浜松市教育委員会指導課	リハビリテーション学部 作業療法学科 伊藤信寿 教授
31	浜松市健康福祉部指定管理者選定会議 委員 任期：2020年5月19日～2021年3月31日 主催：浜松市健康福祉部福祉総務課	リハビリテーション学部 言語聴覚学科 谷 哲夫 教授

## 5. 資料

### 1 ニュースレター第 12 号 (年 1 回発行)

---

発行：2020 年 6 月 12,500 部

内容：・センター長挨拶「地域社会における保健医療福祉・教育の基幹大学を目指して」

・地域と歩む研究紹介「社会的課題を抱える子どもや家庭を支えるためのスクールソーシャルワーカーの質向上を目指して」

「子育て世代がやさしく繋がる講座で健康格差の解消を」

・委員等の状況、研究支援実施状況

・浜松市との連携事業～大学生による講座

・2020 年度地域連携プロジェクト費 採択事業一覧

配布先：実習施設、就職施設、聖隷グループ、卒業生、同系他大学、臨床教授等、市内図書館・協働センターなど

# 地域と歩む

聖隷クリストファー大学  
地域連携推進センター

ニュースレター

# News letter 2021.6 Vol.13



## 地域社会の保健医療福祉・教育の発展を目指して

聖隷クリストファー大学地域連携推進センター長  
リハビリテーション学部理学療法学科 教授 **吉本 好延**



地域連携推進センターでは、地域の保健医療福祉・教育の発展と地域振興に資する大学として、自治体や他大学と連携して事業を行っています。今年度の事業は、東京オリンピック・パラリンピックの推進活動、浜松ウエルネス推進協議会への参画、浜松市との連携事業「大学生による講座」の実施などを計画しています。何卒ご支援いただけますと幸いです。

今年度も、新型コロナウイルスの影響により、多くの事業において従来と異なる方法で実施することを余儀なくされています。コロナ禍においては、従来の事業の必要性や活動方法を見直し、状況の変化に柔軟に対応できる組織体制を構築することが求められています。

本学が地域振興に資する大学として発展するために、変化を恐れない組織体制を構築したいと考えております。今後もよろしくお願いたします。

### ●目次●

- ◆ 地域連携推進センター長挨拶
- ◆ “地域と歩む”地域連携プロジェクトの紹介
  - 『学生の主体的な学習を促す産学連携推進』
  - 『チーム学校及び専門職連携を推進するスクールソーシャルワーカーの質向上を目指して』
- ◆ 2021年度地域連携プロジェクト費採択一覧
- ◆ 浜松市と大学との連携事業  
～大学生による講座 2020年度実施報告
- ◆ 委員等の状況、研究支援実施状況

### ●お知らせ●

#### 地域連携推進センター ホームページリニューアルのお知らせ

この度、本学のホームページリニューアルに伴い、地域連携推進センターのホームページもリニューアルいたしました。講師・委員派遣依頼フォームのほか、本学の地域貢献への取り組みを発信してまいりますので、ぜひご覧ください。



ホームページは  
こちらから

## 地域連携推進センターとは

「地域と歩む」をキーワードに、保健医療福祉・教育の実践現場との共同研究・共同事業、市民の方々への学習機会の提供、地域の自治体や専門分野に関わる団体への協力など、地域に開かれた相談窓口となり、地域の保健医療福祉・教育のさらなる質の向上に寄与するための活動に取り組んでいます。

## “地域と歩む” 地域連携プロジェクトの紹介

当センターでは、保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う本学周辺地域の課題解決に向けた事業を対象として「地域連携プロジェクト費」を分配しています。2020年度に採択されたプロジェクトをご紹介します。

### 『学生の主体的な学習を促す産学連携推進』



代表者 リハビリテーション学部長 新宮 尚人

- ◆分担者：泉 良太（リハビリテーション学部 産学連携推進リーダー）  
柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長）  
俵 祐一（理学療法学科）、飯田妙子（作業療法学科）、佐藤豊展（言語聴覚学科）
- ◆協力者：尾上智彦（株式会社 杏林堂薬局）、木下貢哉（株式会社 杏林堂薬局）  
長嶋桃子（株式会社 杏林堂薬局）、深澤 優（株式会社 杏林堂薬局）  
山田一仁（株式会社 杏林堂薬局）  
眞保勇夫（共栄プロセス株式会社）  
平井 章（社会福祉法人 十字の園 資料館館長）  
高山真希（理学療法学科）
- ◆課題名：リハビリテーション学部における産学連携推進の基盤整備

#### 【プロジェクト発足までの経緯】

2019年度のリハビリテーション学部事業計画の基盤整備として、学部の産学連携推進を開始しました。はじめに、他大学における企業との連携状況の調査（needs調査）、学部教員の企業との連携状況の調査（seeds調査）を行いました。needs調査については、他大学での産学連携の多くは企業と大学（教員）との連携であり、具体的な内容としては、企業での健康講座開催、アプリ開発、歩行補助具作成などでした。seeds調査については、本学部で企業と連携している教員は約3割であり、8割の教員については部分的にあるいは十分連携可能であるという回答でした。上記のように、他大学では企業と教員の連携が主な活動ですが、本学では、在学生が主体的に学ぶことを目的に、“教育”を中心に据えた産学連携を計画しました。

#### 【プロジェクト発足！】

そして、2020年度は実際に企業と連携していく予定としていましたが、新型コロナウイルス感染症の影響により、対面での打ち合わせや企業イベントへの参加などが制限されてしまいました。しかし、そのような中でも、学生はWeb会議システムZoomやE-mailなどを用いて企業との打ち合わせを実施し、作業療法学科で園芸療法、理学療法学科で体操について、株式会社 杏林堂薬局様と動画作成を行いました（是非、下記コードからご覧ください！）。

#### 【プロジェクトを通して分かった課題】

様々なアイデアは学生から出てもらいましたが、企業とのやりとりについては教員がコーディネートしており、その担当教員の負担が大きいことが分かりました。その対応策として企業とのコーディネート担当部署設置の検討が必要であり、2021年度はその役割を明確化し、連携内容のモデル化についても検討していく予定です。



#### 【理学療法学科】



サルコペニア  
・フレイル  
予防体操



高齢者の  
転倒予防体操



デスクワーカー  
必見！肩こり体操



正しい姿勢で  
腰痛対策



ながら運動  
インナーマッスルを  
鍛える呼吸法



ながら運動  
足のむくみ対策と  
ヒップアップ



簡単！寄せ植え作りで  
心を健康に！

## “地域と歩む” 地域連携プロジェクトの紹介

地域と歩む



### 『チーム学校及び専門職連携を推進するスクールソーシャルワーカーの質向上を目指して』

代表者 社会福祉学研究科長 川向 雅弘

- ◆分担者：大場義貴(社会福祉学研究科)、福田俊子(社会福祉学研究科)、藤田美枝子(社会福祉学研究科)、佐々木正和(社会福祉学科)
- ◆協力者：平川悦子(浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー・スーパーバイザー)、長坂聖子(浜松市教育委員会指導課スクールソーシャルワーカー)
- ◆課題名：浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上

#### 【背景・目的・対象・概要】

2008年に文部科学省のスクールソーシャルワーカー(以下SSW)活用事業が開始され、本学では2016年度から社会福祉学科にSSW教育課程を設置しました。学校現場においてソーシャルワークが定着し、機能するために(基盤強化)、社会福祉学研究科教員が浜松市内SSW15名を対象に、下記の通り専門的研修を行いました。なお、研修会は新型コロナウイルス感染症拡大予防のため、Web会議システムZoomを使用して行いました。

また、国内の第一人者をお呼びし、教員側もSSWと共に専門知識の供与を受けるための研修会を行う予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となりました。

#### 【研修内容】

実施日程・時間	担当	内容	参加者数
11月14日(土) 2時間	大場	思春期・青年期の発達障害の心理と社会的課題 ～2次障害への理解を深めるために～	15
12月12日(土) 2時間	川向	ソーシャルワークにおける連携と協働の課題 ーコミュニティソーシャルワークの展開を通して考えるー	15
1月23日(土) 2時間	佐々木	精神障がい者の地域支援	15
2月27日(土) 3時間	福田・藤田	ワーカーとして育つということ ースーパービジョンの基礎知識と育ちのプロセスの語りー	15

#### 【今後の研修会への要望等】

参加したSSWからは、今後の研修会への要望として、「学齢期における不適応児童等の追跡調査の事例について」「ソーシャルアクションの講話」「福祉、医療、保健、障害、さまざまな分野の講座」「意見交換がしっかりでき、先が見える将来にいきる研修」「同じテーマを深めていくような継続的な研修」等が挙げられました。

なお、当研修は2021年度(第2年度)も地域連携プロジェクトとして継続する予定です。

## 2021年度 地域連携プロジェクト費 採択一覧

保健・医療・福祉・教育の実践現場との連携のもとに行う本学周辺地域の課題解決に向けた事業を対象として『地域連携プロジェクト費』を分配しています。2021年1月に公募、4月に審査を行い、2件が採択されました。

課題名	代表者	連携機関
浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師(教員)の質向上(第2年目)	川向 雅弘 (社会福祉学部社会福祉学科)	浜松市スクールソーシャルワーカー 浜松市教育委員会
リハビリテーション学部における産学連携推進の連携モデルの構築	新宮 尚人 (リハビリテーション学部作業療法学科)	株式会社 杏林堂薬局

## 浜松市と大学との連携事業 ～大学生による講座 2020年度実施報告

地域と歩む

本学は、浜松市が企画・推進する事業「浜松市と大学との連携事業～大学生による講座」に参画しています。この事業は、市民と大学生が生涯学習を通じて自分の成長や能力の向上を図る学習活動（生涯学習）を推進し、その学びの成果を地域づくりにつなげていくことを目的に行われています。本学では2020年度に年間で15回の講座を実施し、述べ374人の市民の方々に参加いただきました。

講座名	対象	担当学科等	開催日	会場	参加者数
認知症予防「海馬を鍛えよう!!」	一般	作業療法学科	2020年 9月14日	新津協働センター	25
			2020年10月19日	鹿玉協働センター	16
			2020年11月30日	積志協働センター	24
			2021年 2月26日	みをつくし文化センター	19
フレイルの危険サインを発見！ 楽しく自分で健康チェックをしよう！	一般成人 高齢者	社会福祉学科 介護福祉学科	2020年10月21日	北部協働センター	20
			2020年11月 4日	富塚協働センター	22
			2021年 1月 6日	三方原協働センター	10
おにいちゃん、おねえちゃんに なるための「赤ちゃんのお世話講座」	幼児～小学生、新 しい家族を迎える 予定のあるご家族	看護学科	2020年11月 6日	富塚協働センター	10
自分の身体機能や運動能力を調べてみよう！ ～体の仕組みについて～	小学生	理学療法学科	2020年11月13日	浜松市立北浜小学校	83
			2020年11月20日	浜松市立北浜南小学校	71
			2020年12月 5日	可美協働センター	18
健康寿命を延ばすには？ ～脳トレや体操に取り組んで心も体も元気に！～	高齢者	理学療法学科	2020年11月20日	佐久間歴史と民話の郷会館	18
			2020年11月27日	熊ふれあいセンター	11
みんなで筋肉学 筋肉を学んで、肩こり・腰痛に負けない体を作る	一般成人 高齢者	理学療法学科	2020年11月27日	クリエート浜松	13
			2021年 1月15日	西部協働センター	14

### 本学の教員は、保健医療福祉・教育の専門分野の委員等として地域に貢献しています。

#### 委員等の状況（2020年度）

静岡県専任教員養成講習会運営委員会	浜松市中区まちづくり推進課 浜松市民アカデミー 講師
浜松市福祉人材バンク運営委員会	浜松市北区役所長寿保険課 地域ケア会議 研修会 講師
浜松市母子保健推進会議	浜松市教育委員会 幼児ことばの教室研修会 講師
浜松市地域包括支援センター運営協議会	浜松市教育委員会 家庭教育講座 講師
浜松市国民健康保険運営協議会	浜松市こども家庭部 幼児教育・保育課 保育士再就職支援研修会 講師
浜松市障害者施策推進協議会	浜松市北区社会福祉課 地域福祉推進セミナー 講師
浜松市障がい者相談支援事業に係る苦情処理規定における第三者委員会	浜松市自立支援協議会 地域共生研修 講師
浜松市健康福祉部指定管理者選定会議	浜松市私立幼稚園協会 夏期教員研修会 講師
浜松市SNSを活用した若者相談支援業務に係る評価委員	浜松市私立幼稚園協会 教員研修会 講師
浜松市ひきこもり地域支援センター企画検討委員会	浜松市西区社会福祉課 民生委員活動についての研修会 講師
浜松市要介護度改善評価審査会	浜松市老人福祉センター 萩原荘 転倒予防教室 講師
牧之原市健康づくり推進協議会	磐田市PTA連絡協議会 成人教育研修会 講師
磐田市認知症施策推進協議会	磐田市立磐田中部小学校 校内研修会 講師
静岡県教育委員会 特別支援学校生徒指導連絡協議会 講師	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 外国人介護職員研修交流会 講師
静岡県健康福祉部こども未来局こども未来課 放課後児童支援員認定資格研修 講師	社会福祉法人静岡県社会福祉協議会 福祉職員キャリアパス対応生涯研修課程初任者コース 講師
静岡県社会福祉人材センター 福祉のお仕事魅力発見セミナー 講師	社会福祉法人浜松市社会福祉協議会 住民主体の生活支援セミナー 講師
静岡県私立幼稚園振興協会 初任者教員研修会 講師	一般社団法人静岡県介護福祉士会 介護福祉士実習指導者講習会 講師
静岡県西部健康福祉センター 保健委員リーダー研修会 講師	一般社団法人静岡県訪問看護ステーション協議会 訪問看護ステーション看護師研修 講師
静岡県西部健康福祉センター 新任期地域保健従事者現任研修会 講師	一般社団法人静岡県私立幼稚園振興協会 初任者研修会 講師
静岡県西部健康福祉センター 中堅期地域保健従事者現任研修会 講師	公益社団法人 静岡県看護協会 看護職員実習指導者等講演会(特定分野) 講師
浜松市健康福祉部健康増進課 事例検討会 講師	志都呂幼稚園PTA 保護者対象講演会 講師
浜松市健康福祉部高齢者福祉課 高齢者虐待防止研修会 講師	特定非営利活動法人しずおか・子ども家庭プラットフォーム 児童養護施設等職員研修 講師 ほか

講師の依頼は、地域連携推進センターホームページの専用フォームをご利用ください。

大学ホームページ ▶ 研究・地域連携 ▶ 地域連携推進センター ▶ 講師・委員等の派遣について  
<https://www.seirei.ac.jp/>

【地域と歩む】地域連携推進センター ニュースレター 第13号

発行 聖隷クリストファー大学  
地域連携推進センター

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453  
TEL:053-439-1400 FAX:053-439-1406 Eメール:health-science@seirei.ac.jp





2020 年度  
地域連携プロジェクト 報告書



# 浜松市におけるスクールソーシャルワーカーの基盤強化研修及び講師（教員）の質向上

代表者：川向雅弘（社会福祉学研究科長）

分担者：大場義貴（社会福祉学研究科）、福田俊子（社会福祉学研究科）

藤田美枝子（社会福祉学研究科）、佐々木正和（社会福祉学科）

連携機関：浜松市教育委員会指導課（平川悦子スクールソーシャルワーカー・

スーパーバイザー、長坂聖子スクールソーシャルワーカー）

## 【背景・目的・対象・概要】

2008年に文部科学省のスクールソーシャルワーカー（以下SSW）活用事業が開始され、本県では静岡県と政令指定都市の静岡市と浜松市にSSWが配置された。2014年の「子供の貧困対策に関する大綱」にSSWの拡充が盛り込まれ、政令市を除く県内35市町全てに静岡県教育委員会が任用するSSWを配置することとなった。本学では2016年度から社会福祉学科にSSW教育課程を設置した。浜松市においては、SSW活用事業開始以来、浜松市教育委員会による積極的な活用と現任者の地道な活動により、着実にSSWの周知が図られ、SSW配置（2020年度は15名のSSWが任用）による様々な効果が生じてきている。

分担者の大場と協力者の平川氏、長坂氏は、2019年度本学地域連携事業研究「静岡県内スクールソーシャルワーカーに対する専門的研修が支援活動に与える効果の検証」を行った。その結果から①研修の効果は、性別、年齢、エリア、参加回数に関係なく認められた。②資質向上のためには、児童虐待・貧困対策等の研修を充実させていくことと共に、スーパーバイズ体制の強化が求められる。またエリアの特徴を活かすことやエリア間格差を解消していくことが求められる。③困難事例への支援を複数機関で連携していくためには「現状把握」、「必要な合意形成」、「連携の仕組みづくり」、「評価・改善」、「効果検証」という、一連のPDCAサイクルに則った取り組みが必要である。④これらの取り組みを推進できるコーディネーターの養成や育成が必要であると考察し、2020年度は社会福祉学研究科にて地域連携プロジェクト（以下PJ）として、4回の研修を提供することとなった。

## 【目的と対象・実施方法・研修内容・研修内容の評価方法】

### ①目的と対象

浜松市教育委員会から任用されているSSW 15名を対象に本学教員が専門的研修を行い、基盤強化を目指す。PJは2ヶ年度とする。

### ②実施方法

当PJは、リカレント教育、人材育成、大学院としての地域貢献（知名度向上）等から、社会福祉学研究科（社会福祉学原理領域）が中心になって実施する。

### ③研修内容

研修の内容は、2020年度共同研究で示された「困難事例への支援」、「連携の仕組みづくり」、「スーパーバイズ」と各教員の専門領域を勘案し決定した。

なお、新型コロナウイルス感染症の予防の観点から、研修はビデオ会議システムZoomで実施した。また、国内の第一人者による研修（教員もSSWと共に受講）は、新型コロナウイルス感染症感染拡大の影響で中止となった。

### ④研修内容の評価方法

当PJの目的は研究ではないため、各回や最終回にアンケートは行わないが、参加者から研修回毎に無記名式・任意の「リアクションペーパー（感想）」を収集し、回毎のキーワードと、共通するキーワード（ソーシャルワーカーとしての基礎的な課題、SSWとしての課題）を抽出した。なお、個人を特定出来ない形に加工した。

## 【研修テーマ・概要（上段）／抽出されたキーワードと主なリアクションペーパー記述内容（下段）】

<第1回：思春期・青年期の発達障害の心理と社会的課題～二次障害への理解を深めるために～／担当：大場／参加人数 15人>

11月14日（土）2時間／研修概要：「発達障害の概念・頻度」、「子どもの発達障害と大人の発達障害の関連」、「思春期年代の発達課題と危機」、「二次障害とその影響」、「発達障害と暴力・自虐」、「虐待経験者の脳皮質容積変化」、「発達障害の人の働きづらさ」、「親自身のメンタルヘルスの危機へのプロセス」、「かかわり方のポイントとコツ（こども・親）」、「レジリエンス」、「体制整備」

### 二次障害・負の循環

発達障害の二次障害が生み出す負の循環が不適切養育へつながる高いリスクであることを、あらためて胸に刻んだ。／1歳6か月検診で約18%の子どもが発達障害の疑いがあるということを知り、医療だけでは、この先やっていけなくなるという現実を知った。／マルトリートメントが第4の発達障害の原因となっている可能性を知った。

### SSW、スクールカウンセラー（以下SC）、発達支援、教育現場

専門職であるワーカーやSCは医療と学校をつなぐキーになると思った。／診断に関わらず、困難やつまずきを知り、本人の困り感が軽減されていく校内支援を築きたい。／幼児相談の支援体制にはまだまだ課題が多い。

### レジリエンス、受容

「レジリエンス」という言葉を初めて知った。／「SOSを出す力」を身に付けなければならないと思った。／人間社会を正しく形成し変革する教育は、人間の多様性を受容しながら生きる意味を伝えていくことだと思う

＜第2回：ソーシャルワークにおける連携と協働の課題—コミュニティソーシャルワークの展開を通して考える—／

担当：川向／参加人数 15人＞

12月12日（土）2時間／研修概要：コミュニティソーシャルワーク（以下CSW）、わが国で多様に取り組まれているCSWの共通理解（1）生活課題（特に制度の狭間にある）への個別支援と、個別課題の社会化（2）いわゆるCSW実践における共通理解のための事例 ①「ゴミ屋敷」の問題を例に ②「認知症の人と家族」が抱える問題を例に（3）CSWに期待されること —2つの事例のキーワードは「孤立」と「排除」—、CSWへの誤解と曲解 —CSWは誰が担うのか—、CSWは様々な専門職と地域住民が重なり合い、支援を補強し合う。しかし、「連携」と「協働」は容易くない —「制度の狭間」と「支援の狭間」—

**アセスメント、身近な社会資源**

ソーシャルワーカー自身が利用者にとってのもっとも身近な社会資源であり、「制度」であるという意識が大切／CSWと関わる機会をもっと増やし、SSWが包括的にCSWと連携していく視点を持ちたい

**地域、見守り、みんなで、フォーマル・インフォーマル**

8050問題のような、コミュニティソーシャルワークでは対応できない問題を、地域による見守りを中心にした支援で解決していくのが理想的ではないか／フォーマル、インフォーマルの多様な関係機関に「みんなでやりましょう」といった呼びかけをしながらチームで対応することが肝心／浜松市の地域包括支援センターは高齢者だけでなくもっと幅広い相談機能を担うことはできないか／浜松市の外縁部や中山間地域において、市中心部と同質同様の支援をしていきたい。

＜第3回：精神障がい者の地域支援／担当：佐々木／参加人数 15人＞

1月23日（土）2時間／研修の概要：精神障がい者のもつ精神疾患の特徴、精神保健福祉に関する医療制度、福祉制度の歴史に関して政策の変遷も交えながら説明した。後半では地域で生活する精神障がい者の抱える困難や課題について様々な事例を基に報告した。また、対応が難しいとされる精神障がい者の暴力の発生機序には、本人の疾患のみならず、社会的要因、家族的要因等もあることを説明した。具体的な対応方法としてのデイエスケーレーションの技法についても解説した。

**政策、医療、歴史**

精神科医療、受け入れ施設（地域移行支援機能）、地域生活継続支援（相談支援、通所型就労支援、成年後見制度等）の連携が整っていれば多くの安定期の患者が地域生活を送ることができるのでは／改めて精神障がい者の方たちがどのような政策の中で、扱われてきたのかを学んだ／虐待者になっているケース共通の「高EE」の話が心に残った

**虐待、暴力、家庭の現場**

今回の研修を受けて、自分の仕事により一層やりがいを感じた／同居する家族への暴力への対応について、当事者が落ち着いているときに暴力はいけないと話し合うこと、暴力を受けたら大げさに痛みが本人が我に返るようにすること、暴力を受けていることを秘密にしないこと、警察に通報することなど様々な対応の仕方を学んだ／福祉サービスの認定調査では表れない現場の大変さを、しっかりワーカーが勘案しなければならないという話を聞き、SSWとしても事務的な質問では分かり得ない当事者の大変さを代弁することを忘れずにいようと思った／精神疾患のある保護者と接するのは難しいと感じていたので今回の研修はとても興味深かった

＜第4回：ワーカーとして育つということ—スーパービジョンの基礎知識と育ちのプロセスの語り—/  
担当：福田・藤田／参加人数 15人＞

2月27日(土)2時間／研修の概要:前半は福田が担当し、スーパービジョンの基礎知識を確認した。後半は、浜松市においてSSWのスーパーバイザーである平川氏に、2008年から現在に至るまでの実践の軌跡について語っていただいた。参加者から、浜松市におけるSSWの歴史そのものを知ることができて大変有意義であったとの声をいただいた。

**葛藤、悩み続ける、経験、気づき、長期的に寄り添う、巻き込まれ続ける**

自己表現能力が十分でない児童の様子から、不安定な心理の要因を把握することは容易ではない。性急な結論を求めず、長期的な寄り添い支援が必要だ／SSWとしての●年間の中で「あれで良かったのか」と悩む体験もある。今回の研修で「わからないままできて、考え続ける」＝「巻き込まれ続ける」ことが大切であることを知って心を強くした／自分自身の経験が今のSSWとしての基礎や価値を作っていることで、自身も歩みを振り返り、一つ一つの出来事の意味を考えていきたい／葛藤を持ち続けていいのだということを常に自分の中に置いておきたい

**スーパーバイザー、スーパーバイジー、尊厳**

スーパービジョンの基礎を学ぶ良い機会になった／ワーカーの専門性の特質が「尊厳」であると学んだが、このことはきっとこれからの私のワーカーとしての活動の根底になるものだと感じた

**成長、信じる、SSWとしての資質向上、自己研鑽、総合力**

常に多様性を受容する柔軟性、倫理と価値・権利擁護の堅持を意識下におき、尊厳をもって関わる姿勢を継続したい／「超えられない壁に直面したときうずくまってないでうろつくこと」という言葉と、「(子ども)本人の成長する力を信じる」という言葉が心に残った／現在、●年関わっていても変わらないケースがあるが、今回の研修を受けて、恐らく自分にとって忘れられないケースになると感じた／学校現場環境も各校異なる中で、SSWの業務レベルの標準化は難しい課題／SSWは人間としての総合力が必要

## 【全体共通のキーワード】

抽出された課題	主なリアクションペーパーへの記述内容
<b>【ソーシャルワーカーとしての基本的な課題】</b> アセスメント、多機関連携・協働、支援の空白、制度の狭間を作らないのりしろ機能	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 正しい知識／事例を通してアセスメント力を高める</li> <li>✓ 多機関連携・協働のために支援者同士が顔の見える関係／「のりしろ」となって連携／制度の狭間をなくす／自分の守備範囲を広げる／お互いの立場を理解し、思いを共有／支援の切れ目を作らない</li> </ul>
<b>【SSW としての課題】</b> 学校側の理解促進、保護者・家族理解、義務教育終了までに生徒自身の救われ感の実感やレジリエンス向上に寄与、アウトリーチ、高校との連携、家庭支援の必要性、ヤングケアラー	<ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 学校側の親の理解（発達障害や精神疾患）が欠如／保護者の特性からくる生活や養育の困難さや困り感／教育現場と共有しながら支援／親の発達障害による不適切養育や虐待／親自身に障害の特性の理解や受容がない／保護者の精神疾患／家庭というプライベートな空間で孤立している児童や生徒</li> <li>✓ 義務教育終了後青年期の支援が薄い／義務教育終了までに SOS で救われたと感じる経験を／早期に適切な支援を受けることが、その人のレジリエンスにつながる／SSW は問題を早期発見し早期支援につなげるアウトリーチの役目／高等学校との連携</li> <li>✓ 家族に要介護者や障害者、乳幼児／専門分野との連携が必要／ヤングケアラー（生徒が母の介護）</li> </ul>

## 【まとめ】

抽出されたキーワードや主なリアクションペーパー（感想）への記述内容から、今回の研修が、発達障害、精神障害等への理解と対応という個別理解の側面と、ソーシャルワークにおける連携と協働の課題やスーパービジョンの理解やSSWとしての育ちのプロセスの語り、といった、連携やSSWとしての実践の振り返りの側面がバランスよく配置された構成であり、SSWの質向上に貢献したと考える。

各回抽出されたキーワード（二次障害・負の循環、SSW、SC、発達支援、教育現場、レジリエンス、受容、アセスメント、身近な社会資源、地域、見守り、みんなで、フォーマル・インフォーマル、政策、医療、歴史、虐待、暴力、家庭の現場、葛藤、悩み続ける、経験、気づき、長期的に寄り添う、巻き込まれ続ける、スーパーバイザー、スーパーバイジー、尊厳、成長、信じる、SSWとしての資質向上、自己研鑽、総合力）及び共通に抽出されたキーワード（アセスメント、多機関連携・協働、支援の空白、制度の狭間を作らないのりしろ機能・学校側の理解促進、保護者・家族理解、義務教育終了までに生徒自身の救われ感の実感やレジリエンス向上に寄与、アウトリーチ、高校との連携、家庭支援の必要性、ヤングケアラー）は、ソーシャルワーカーとして基本的に必要な対応能力であり、SSWとして更なる取り組みの深化が求められる課題でもあるため、今後も社会福祉学研究科としてSSWの質向上に貢献していく必要があると考える。

# リハビリテーション学部における産学連携推進の基盤整備

代表者：新宮尚人（リハビリテーション学部）  
分担者：泉 良太（リハビリテーション学部 産学連携推進リーダー）  
柴本 勇（リハビリテーション科学研究科長）、  
俵 祐一（理学療法学科）、飯田妙子（作業療法学科）、佐藤豊展（言語聴覚学科）  
連携機関：株式会社 杏林堂薬局（尾上智彦、木下貢哉、長嶋桃子、深澤 優、山田一仁）  
共栄プロセス株式会社（眞保勇夫）  
社会福祉法人 十字の園（資料館館長：平井 章）  
協力者：高山真希（理学療法学科）

\*当初の計画を基に記載する（COVID-19 流行前）。結果以降は COVID-19 流行後のものである。

## 【本プロジェクト発足までの経緯】

2019年度のリハビリテーション学部事業計画の基盤整備として、学部の産学連携推進を開始した。

はじめに、他大学における企業との連携状況の調査（needs 調査）、学部教員の企業との連携状況の調査（seeds 調査）を行った。needs 調査については、他大学での産学連携の多くは企業と大学（教員）との連携であり、具体的な内容としては、企業での健康講座開催、アプリ開発、歩行補助具作製などであった。seeds 調査については、本学部で企業と連携している教員は約3割であり、8割の教員については部分的にあるいは十分連携可能であるという回答であった。しかし、現在、本学には産学連携についての担当部署がないため、手続きなどで不便なことが多いという意見があった。以上より、本学の体制整備に関する課題を以下のとおり明確化した。

### 課題 1

他大学では企業と教員の連携であるため、本学では、在学生が参加することとし、“教育”を中心に産学連携を行う。

### 課題 2

現在は業務（教育・研究活動）として行うことができない体制であるため、授業や研究の一環として実施できるような環境を整える必要がある。そのためには、担当部署を設置し、コーディネートを行う必要がある。

## 【連携機関とともに課題を認識した経緯】

### 株式会社 杏林堂薬局との顔合わせ

- ・現在、薬剤・栄養部門はあるが、運動部門が設置されていない。地域貢献イベントとして、様々な運動に関連する活動を実施しているので、ケガ予防やケガ後のフォローなどが行えると良い。まずは、教員と学生でイベントに参加し、学部で連携可能なことについて検討する。

### 共栄プロセス株式会社との顔合わせ

- ・介護福祉機器の開発を行っている。医療職および学生目線での意見や工夫すべき点のアドバイスが欲しい。



## 【その課題解決に向けた目標設定】

2020年度の産学連携推進の到達目標は企業と部分的に連携し、連携に必要な学内整備を明確化することとし、具体的な行動計画は、企業見学や企業イベントへの参加、連携可能な内容についての明確化、本学部教員の産学連携についてホームページ等で公表、企業との連携に必要な学内整備の明確化、学内周知のための連携活動内容発表会の開催とした。

## 【実施方法】

### 企業との連携について

- ・株式会社 杏林堂薬局については、はじめにイベントに参加し、学部として連携可能なことについて、学生、教員、協力者間で検討する。その後、検討可能なことについて準備を行い、イベントで学生主体のブース設置を目指す。
- ・共栄プロセス株式会社については、教員と学生で企業訪問し、現在開発中の介護福祉機器を見学・体験し、現在の課題について、学生、教員、協力者間で検討する。その後、具体的な修正点や工夫点について統合し、学生主体で機器の開発準備に取り組む。

### 学内整備について

- ・本学部教員が現在実施している産学連携について、A4、1枚程度でホームページにて公表し、本学部のseedsを企業に周知する。その際には、入試・広報センターと連携して実施する。
- ・2つの企業と連携を進めるにあたり、学内での産学連携組織構築など、整備が必要な内容について明確化する。その際に、必要に応じて関連部署（地域連携推進センター、総務部）に相談する。

## 【地域へのフィードバック方法】

- ・株式会社 杏林堂薬局については、地域貢献イベントの中で参加者へのフィードバックを実施する。
- ・共栄プロセス株式会社については、介護福祉機器の開発状況等を公開し、地域へのフィードバックを実施する。
- ・年度末に連携活動内容発表会を実施し、その内容をホームページにアップし、学内外に周知する。

## 【連携の結果について】

2020年度は対面での打ち合わせや企業イベント参加などが制限されたが、ビデオ会議システム Zoom や E-mail などを用い、学生、企業、教員間で打ち合わせを実施した。その結果、作業療法学科で園芸療法、理学療法学科で運動について、学生を中心に株式会社 杏林堂薬局と動画を作成することができた。全ての動画は動画共有サービス YouTube で閲覧可能である。2021年度は言語聴覚学科も連携予定である。また、すべての企業とのやりとりは教員自身がコーディネートしており、学内での担当部署が必要であることが分かった。

## 【解決すべき課題】

今後、産学連携を推進していくにあたり、連携に必要な学内整備を確認することが必要であり、並行して、連携企業との関係を強化することが重要である。具体的には、継続して学生と企業で動画を作成し、連携内容のモデル化について検討し、可能であればイベント等に参加し、ブースでの地域貢献も実施する。連携内容については、本学ホームページおよび株式会社 杏林堂薬局ホームページ等で公表することで、広く地域に還元できると考える。



2020年度地域連携推進センター運営会議  
委員一覧

センター長	吉本 好延	リハビリテーション学部理学療法学科	教授
副センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科	准教授
委員	氏原 恵子	看護学部	助教
委員	伊藤 純子	看護学部	助教
委員	鈴木 光男	社会福祉学部こども教育福祉学科	教授
委員	井川 淳史	社会福祉学部社会福祉学科	助教
委員	飯田 妙子	リハビリテーション学部作業療法学科	助教
委員	中村 哲也	リハビリテーション学部言語聴覚学科	助教

2021年度地域連携推進センター運営会議  
委員一覧

センター長	吉本 好延	リハビリテーション学部理学療法学科	教授
副センター長	大場 義貴	社会福祉学部社会福祉学科	准教授
委員	酒井 昌子	看護学部	教授
委員	氏原 恵子	看護学部	助教
委員	井川 淳史	社会福祉学部社会福祉学科	助教
委員	飯田 妙子	リハビリテーション学部作業療法学科	助教
委員	中村 哲也	リハビリテーション学部言語聴覚学科	助教

---

## 地域連携推進センター年報 第12号(2020)

2021年11月1日発行

編集 聖隷クリストファー大学 地域連携推進センター

発行 聖隷クリストファー大学

〒433-8558 静岡県浜松市北区三方原町3453

TEL 053-439-1400 FAX 053-439-1406

印刷 日興美術株式会社

---

---

# 地域と歩む

聖隷クリストファー大学  
地域連携推進センター

---